

2023年1月15日（顕現後第2主日、A年）

牧師メッセージ

「泊まる、とどまる」

（ヨハネによる福音書1:29-41）

司祭ヨセフ太田信三

「〇〇さんを知っている」というとき、ただ名前だけ知っているのと、その人のひととなりまで知っているのでは大きく異なります。イエスを知っている、というのも同様です。ただキリスト教の教祖としてか、まことにメシアとしてか。ヨハネ福音書には、まことのメシアとして主イエスを知るため、主イエスと出会うために大切なことが示されています。

洗礼者ヨハネの二人の弟子が、主イエスの弟子となるためについてきます。主イエスは振り返り、後をついてくるこの二人に「何を求めているのか。」と問います。彼らは問いで答えます。「ラビ、どこに泊まっているのですか。」これは奇妙なやり取りに感じられますが、主イエスはきちんとお答えになります。「来なさい。そうすれば分かる。」この直訳は「来なさい、そして見なさい」です。彼らは主イエスの泊まる場所についていき、主イエスの上に霊がとどまっていることを見、主イエスが神にとどまる、神の愛の内に生きるまことのメシアだと知りました。

ここまで何度も使われている「泊まる」と訳されている単語は「μενω（メノー）」というギリシャ語で、ヨハネ文書で最も大切な単語の一つです。驚くほど頻繁に使われていますから、是非読み返してみてください。他の箇所では「とどまる」とか「繋がる」とか「内にいる」と訳されています。なぜこの単語が大切かと言うと、「相互内在」ということが、主イエスとの出会いには不可欠だからです。「相互」とは主イエスとわたし、「内在」とは相手の内に存在する、とどまる、ということです。主イエスがわたしたちの内にとどまり、わたしたちも主イエスにとどまるなら、わたしたちは時空を超えて救い主として主イエスを知ること、出会うことができる。このことをヨハネ文書は伝えているのです。

二人の男たちは、主イエスのもとに泊まる（とどまる）ことで、主イエスを知り、主イエスと神との交わりに迎えられました。「何を求めているのか」と問われた主イエスは、この神との関係へと二人を招いたのです。二人の男はその招きに応え、主イエスにとどまることで、まことのメシアと出会いました。「わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです（Iヨハネ4:19）」とある通り、「相互」に「内在」できるのは、主イエスがまずわたしたちにとどまってくださるからです。主の愛の招きに応え、主イエスの愛にとどまりましょう。